2021年（令和3年）
第8号
（5月17日）

平安だより

HEIAN letter

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

第 52 回青年の日　～青年部員を中心に Zoom により開催～

第 52 回青年の日は５月 16 日、全国の教会で独自の活動が行われ、京都教会においても Zoom により開催され青年部員を中心に会員約60名が参加しました。

午前 11 時からのオンライン青年の日は、その活動の歴史を振り返ることから始まりました。1970 年（昭和 45 年）に第１回青年の日が行われ、毎年全国の青年部が中心となり社会に役立つ運動を続け、1988 年（昭和 63 年）には国連平和賞受賞を紹介。2020 年（令和２年）第 51 回からはテーマが「大河の一滴になろう。」になったと振り返りました。

そして近年、人類がこの地球で暮らし続けていくために世界のさまざまな立場の人々が話し合い、考え、決めた2030年までに達成すべき持続可能な開発目標「SDGs」が叫ばれている中、その 17 項目について解説を行うとともに、本日を迎えるまでに京都教会青年部がどのような取り組みが出来るのかを話し合いました。

そして同青年部を中心に「SDGs ドロップス」を結成、今まで取り組んでいた「アフリカへ毛布をおくる運動」「ゆめポッケ」「一食を捧げる運動」がそのまま SDGs に当てはまることを紹介。特に「一食を捧げる運動」は「“いつでも、どこでも、誰にでも、いつまでも”できるわかちあい運動」であることを詳しく解説されました。

その後、ディスカッションタイムになり Zoom 内でランダムにグループ分けされ、SDGs についての各自意識の違いや取り組みなどについて話し合いを行いました。

正午には全国統一プログラムである「祈りの言葉」を唱和、黙とうしました。

午後からは SDGs について具体的にどのような活動が出来るのかをホップ、ステップ、ジャンプに段階的に紹介されました。ホップでは家庭の節電方法の例、ステップでは地産地消やネギの栽培、ジャガイモの皮むきの工夫、ゴミの分別、フェアトレード商品の購入など。

その次には全員参加のクイズ形式で SDGs について、その理解を深めました。

今後、月１回オンラインによる「ドロップカフェ」を開催することや青年部によるインスタグラム開設が発表され、活動を継続・発展させていくことが述べられました。（インスタグラムは「#SDGs ドロップス」で検索）

最後に中村教会長からまとめの言葉があり、SDGs は特別なことではないこと、法華経の精神と通じるものがあること、感謝の声かけも SDGs につながることとともに、命の尊さを大切に出来る人格になってもらいたいと述べ、結びました。

あなたのお仕事を教えて下さい　～洛叡支部　江口征男さん～

Ｑ：仕事先はどちらですか。
Ａ：自営業です。
Ｑ：どのような仕事内容ですか。
Ａ：お寺のお堂に置かれる仏具に漆を塗る仕事に関わっています。
Ｑ：なぜ今のお仕事に就かれましたか。
Ａ：18 歳の時に親類を頼って長崎から出て来ました。師匠は 17 歳年上の従兄にあたります。３人の先輩の中で、12 年間修業を積み、30 歳の時に独立させて頂きました。伝統産業である京仏具の仕事で、信用を築くために夜遅くまで働き、幼い頃の子供たちと一緒に遊んだ記憶はほとんどありません。（妻の証言）
Ｑ：仕事中に心掛けていることなどがあれば教えて下さい。
Ａ：今日まで浄土宗、浄土真宗、真言宗、法華宗（日蓮宗）等、宗派によって形状も色塗りも異なる仏具を手掛けてきました。

仏像を塗る機会もあり、手間のかかる地味な仕事ですが、今日まで 50 数年一筋に続けてこられたことに只々感謝です。

業界の景気は右肩下がりの一途ですが、一日でも長く好きな漆に触れていたい、そのような毎日です。

令和３年、私たちは「どこでも道場　祈り祈られ　笑顔と涙によりそおう」を実践して参ります。

京都教会のホームページが出来ました。https://rkk-kyoto.jp/